

地域DXの現場から

1 山梨中央銀行のDXに対する施策

山梨中央銀行経営企画部

地方創生推進部

古屋 豪
岡本 新一



一 はじめに

山梨中央銀行は地域の様々なプレイヤーのハブとしての役割を果たし、DXを中心とした新たな価値創出（＝地域DX）を目指し、地域社会課題の解決に向けた取り組みを開始した。

今後、関係部とともに所属の垣根を越えて、多様なプレイヤーとの共感の連鎖から新たなプロジェクト創出に向けた取り組みを加速させる。

山梨県は、富士山や八ヶ岳、南アルプスなどの高い山に囲まれ、すり鉢のような「盆地」と

いわれる地形をしている。高い山が海からの湿った風を遮ってくれるので、一年中雨や雪が少なく、晴れの日が多い気候である。これらの自然が山梨ならではの農産物や特産物をもたらし生活を豊かにしてくれる。

山梨県は日本のほぼ真ん中に位置し、東京都、神奈川県、静岡県、長野県、埼玉県と隣接しており、人口は27市町村に約80万人が暮らしている。

豊かな自然や世界に誇れる多くの地域資源・地域産業を有しており、リニア中央新幹線、中部横断自動車道など高速交通網の整備も予定され、県外からの移住者の増加など、将来の飛躍

的發展が期待される。

二 山梨中央銀行について

1 山梨中央銀行の取り組み

そのような自然豊かな山梨で、山梨中央銀行は1874年6月に「興益社」をルーツとしてスタートした。地域の殖産興業の発展に取り組み、わが国で初めての貯蓄預金「興産金」の取扱いを開始するなど先進的な取り組みを実施してきた。約150年の時を経た今においても地域経済の持続的成長を願う思いは脈々と受け継がれている。

その思いを受け継ぎ、地域経

済の持続的成長の実現と当行自身の企業価値向上のために、「豊かな自然環境の維持と将来への継承」、「さまざまな連携強化と地域経済の活力向上」、「DXの実現と地域社会のデジタル化」など6つの取り組みむべきマテリアリティ（重要課題）を特定した。

また、様々な価値観をもった人材の活躍や登用を進めるべく、本中期経営計画の策定に合わせて、社会における当行の確固たるパーパス（存在意義）「山梨から豊かな未来をきりひらく」を明文化した。

マテリアリティの解決に向け、本中期経営計画では、変革

